



JAPAN

JPC 女性スポーツ委員会 女性パラアスリートの 課題抽出のための アンケート調査結果

女性パラアスリートはどのようなことに悩み、どのような女性特有の問題が競技に影響を与えているのでしょうか。2019年12月～2020年2月にかけてウェブで行った「女性パラアスリートの課題抽出のためのアンケート調査」から、アンケート結果をまとめました。

■ アンケートの詳細

調査期間：2019年12月16日～2020年2月15日

調査対象：JPC加盟競技団体（統括団体・男子チーム除く）

所属の強化指定選手（女子選手）413名中240名
（有効回答率58.1%）

JPC加盟競技団体（統括団体・男子チーム除く）
強化スタッフ 98名（49団体）

■ 相談窓口



JPC 女性スポーツ委員会へのご相談

（JPC事務局が対応致します）

E-MAIL: jpc-womensports@parasports.or.jp

■ ホームページ



JPC 女性スポーツ委員会

URL: <https://www.parasports.or.jp/paralympic/jpc/womens.html>



日本パラリンピック委員会（JPC）

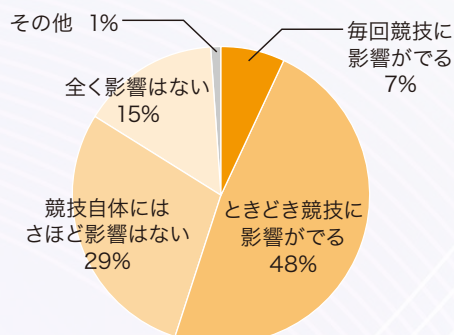
URL: <https://www.parasports.or.jp/paralympic/>



女性パラアスリートが困っていること

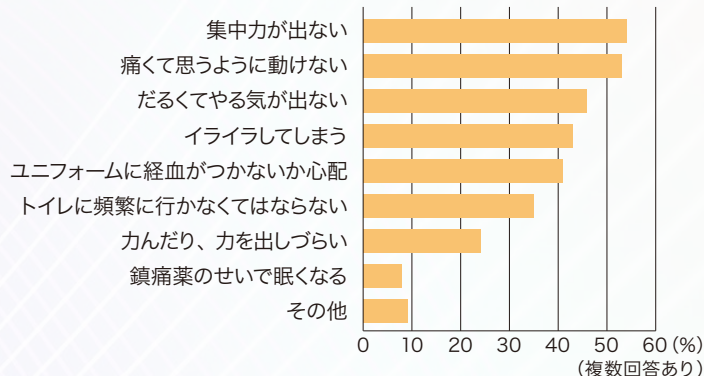
月経は競技に影響を与えている？

(回答数=216)



月経の影響ってどんなこと？

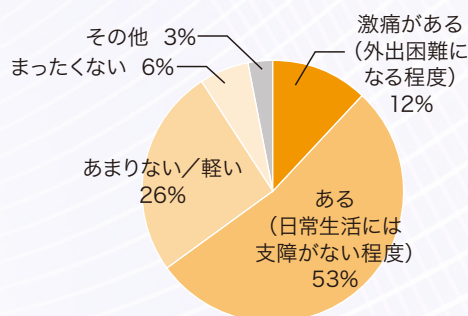
(回答数=133)



女性パラアスリートの55%が、「月経」は競技に影響を及ぼしていると回答。また、月経によるさまざまな影響は、身体的要因によるものばかりではないため、心理的な配慮も必要だということが明らかになりました。

月経痛はある？

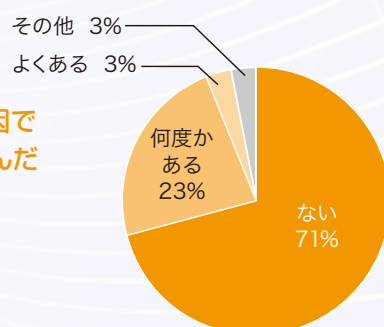
(回答数=216)



月経痛には個人差があり、月経痛があると回答した女性パラアスリートは65%でした。また、月経に関連して生じる症状やコンディションが最も良い/悪いと感じる時期は、月経周期により個人で異なることが明らかになりました。

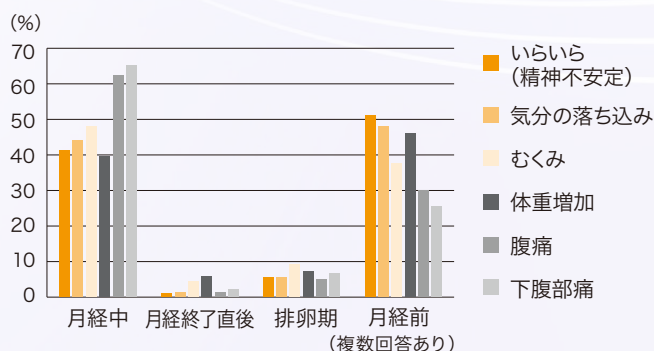
月経痛などが原因で試合や練習を休んだことがある？

(回答数=216)

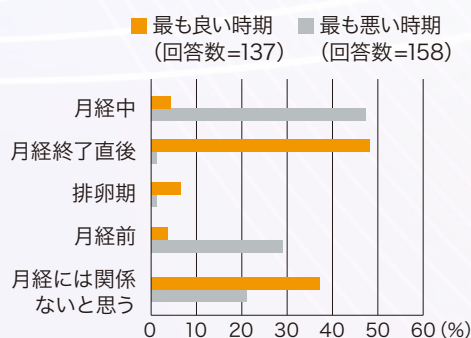


月経痛が原因で競技を休んだことがある女性パラアスリートは26%。練習を休めなかったり、月経痛の症状が重い時だけ休む女性パラアスリートもいるため、日頃からコンディションについて相談できる体制が必要です。

月経に関連する症状とその時期 (回答数=216)

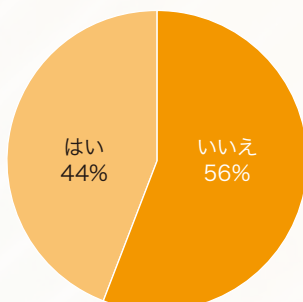


コンディションが最も良い・悪い時期



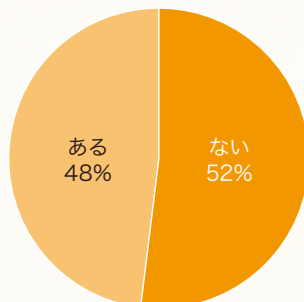
まわりの競技関係者で女性特有の悩みを相談できる人はいるか？

(回答数=234)



婦人科を受診したことがあるか？

(回答数=236)



女性パラアスリートの56%が、女性特有の悩みを相談できる人が競技関係者にはいないと回答。その内訳としては、「月経痛がある」と回答した110名が含まれていました。このことから、月経痛があっても約8割の女性パラアスリートが相談できずにいる現状が浮き彫りとなりました。



競技団体で相談体制を整えたり、婦人科医や専門家にも気軽に相談できる環境づくりが必要です。

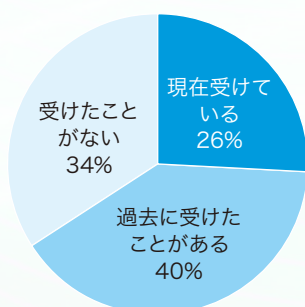
JPC 女性スポーツ委員会でもメール相談を受け付けています。



競技団体における女性パラアスリートからの相談状況

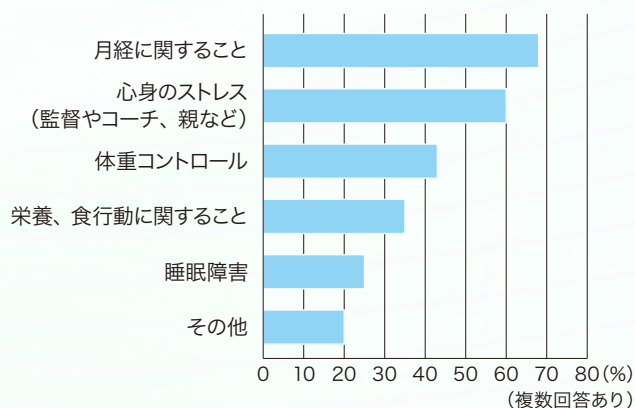
女性パラアスリートから女性特有の悩みなどについて相談を受けたことがあるか？

(回答数=98)



女性パラアスリートからの相談内容は？

(回答数=65)



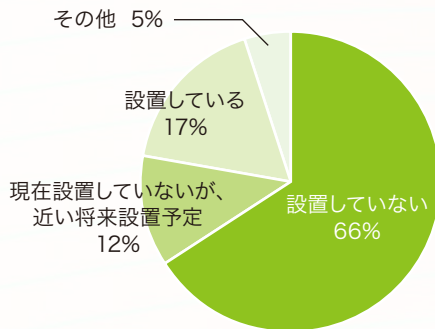
女性特有の悩みなどについて、女性パラアスリートから相談を受けたことがあるとした競技団体関係者は66%にのぼりました。具体的な相談内容は、月経に関することが最も多く、心身のストレス、コンディションや栄養に関する、睡眠障害についての相談も挙げられました。女性パラアスリートが競技団体内で相談する相手としては、トレーナー（48%）が最も多く、続いて女性の監督・コーチ（42%）、男性の監督・コーチ（34%）の順でした。



競技団体内の女性パラアスリート・スタッフへの支援体制

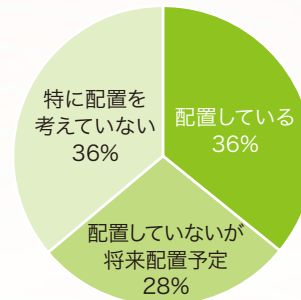
女性パラアスリート/女性スポーツ委員会を設置している？

(回答数=94)



女性パラアスリートの強化・指導を担当する役員はいる？

(回答数=92)

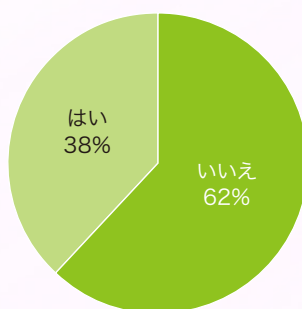


女性パラアスリート/女性スポーツ委員会を設置している競技団体はわずか17%にとどまり、設置していない（設置を検討中含む）競技団体が78%を占めました。女性パラアスリートの強化・指導を担当する役員（意思決定にかかわる役員）については、配置している競技団体は約4割近く存在するものの、配置していない・考えていない競技団体は6割以上におよびました。女性パラアスリートの声を反映する環境が整っていないことがうかがえます。

また、現在、女性パラアスリートに対する研修やサポートなど、「競技団体として取り組んでいる」（過去に取り組んでいた）とした競技団体は38%にとどまり、60%が「特に取り組んでいない」と回答していました。

女性指導者や女性スタッフが抱えている課題を把握している？

(回答数=95)



女性指導者・女性スタッフが抱える課題を把握しているかについて、全体では62%の競技団体が把握していないことがわかりました。性別でみると、女性の64%が把握していないと回答したのに対し、男性は59%と差がなく、性差に関係なく、女性指導者・女性スタッフが抱える課題を把握していない現状が明らかになりました。

本アンケートのまとめ

「女性パラアスリートの課題抽出のためのアンケート調査」では、女性パラアスリートが抱える身体的な課題や環境整備に向けた課題の一部が明らかとなりました。これらの課題解決のためには、女性パラアスリートのみならず、指導者やコーチ、スタッフの声が、競技の場に活かされる環境整備が急務といえます。JPC 女性スポーツ委員会でも課題解決に向け取り組んでまいります。